

小児科 ST リハを受けているダウン症候群児童の皆様へ

ダウン症児の構文理解と言語性短期記憶の関係についての研究

研究責任者 小野 正恵 東京通信病院小児科

研究協力者 石上 志保 東京通信病院小児科 言語聴覚士

前新 直志 国際医療福祉大学保健医療学部言語聴覚学科(教授)

当科では、通院されているダウン症候群のお子さんは非常に多く、診療から得られた知見をさらにほかのお子さんに還元し、少しでも有効な治療・介入ができることを目指しています。

当科で熱心な言語指導をしてくださっている言語聴覚士の石上志保先生が中心となって、ダウン症児の構文理解と言語性短期記憶（非単語の復唱課題、聴覚的把持力検査）の関係を確かめる研究が行われることになりました。

I 対象と方法

1. 対象

2019年1月から12月に、東京通信病院小児科の言語外来にて評価・訓練を行った児童（6歳～10歳）53名の、構文理解検査結果の得点と、言語性短期記憶課題（非単語の復唱課題、聴覚的把持力検査）の結果について、統計的な関係の有無を確認する。

2. 検査内容

これまで、ダウン症児に対し石上志保言語聴覚士が、日常診療の一環として行ってきた評価、訓練に以下の1)～3)の検査が含まれる。

1) 構文理解検査

「おとうさんが座る」などの2語文から「お母さんを男の子が助ける」「自転車に乗った男の子をお母さんが追いかける」などの複雑な文章までの理解を、絵を選択させることで確認する検査。

2) 非単語の復唱課題

「のか」「えちと」「つびねみ」など無意味音節を復唱させ、いくつかの音の単語まで復唱できるかを確認する。無意味な音節の記憶力を測る。

3) 聴覚的把持力検査

「くるま・ねこ」「りんご・ふね・うさぎ」など複数の単語を音声提示し、9枚の絵カードの中から選択させる。意味性の記憶力を測定する。

3. データ解析

1) 個人情報保護の方法

検討対象のデータには対象者の年齢と性別以外の個人情報を含まない。準備段階の個人情報が外部に漏洩することのないよう厳重に管理を行う。個人情報を保護するために対象者にコード番号を割りつけて匿名化を行い、データの取り扱いは、このコード番号を用いて行う。個人情報とコード番号を照合する符合表は作成しない。

なお、個人情報は、診療担当の石上志保以外の研究協力者には開示されず、結果が院外に出ることはない。

2) データの使用方法，保存方法，および保存期間

個人情報と紐づくデータは院外に持ち出さない。データは個人情報をコード番号に変えた状態で、コンピュータで動作するデータベースに入力する。このデータは本研究以外の目的に使用しない。解析は石上が行い、統計学的手法の選択などにつき、研究協力者のアドバイスを得る。

データの保存は、学術誌に掲載されるまでとし、目的を達成したら消去する。

II 倫理的配慮

1) 個人情報の保護

各対象者の診療時に行う電子カルテ記載の際、年齢と性別以外の個人情報は含まないデータを、コンピュータで動作するデータベースに入力する。この際、個人情報をコード番号に変えた状態で行い、さらに研究責任者が、個人を特定できる情報が付随していないことを確認する。

研究対象データは、診療で得られた結果であり、個人情報を含むものではないため、あらためて対象者に説明する必要がなく、説明書および同意書も不要である。

2) 対象者が研究によって得られる利益

今後の指導内容に還元される可能性が高いが、それ以外にはなし。

3) 研究成果の公表

本研究の成果は、国内および国外の専門学会での研究発表、並びに、学術誌への論文投稿により公表する。現在、日本音声言語医学会を予定している。成果の公表に際して、個人を特定できる情報は含まない。

4) 生じ得る利益相反

本研究において経済的利益の発生は想定され得ず、よって他機関との利益相反も生じない。